

平成 25 年度継続事業に関する継続評価書

研究機関 : NEC(株)、東北大学
研究開発課題 : 災害時避難所等における局所的同報配信技術の研究開発
研究開発期間 : 平成 24 ～ 25 年度
代表研究責任者 : 西原 基夫

■ 総合評価 : (適)

(評価点 19 点 / 25 点中)

(総論)

引き続き研究開発を推進することが適当である。

(コメント)

- 着実に成果を上げている。
- 本研究開発では新規性の高い技術が扱われていると考えられるが、具体的な方式については一部不明確な点があった。今後は、得られた研究成果の優位性等について、具体的かつ簡潔に示して頂きたい。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

計画通りの成果が得られている。また、新規性の高い成果も得られている。

(コメント)

- 担当する研究機関の得意とする技術を十分に活用している。
- 課題ア、イのいずれも計画通りの成果が得られている。
- 課題ア) - 1 で検討されている Promiscuous モードを用いた TCP によるリライアブルマルチキャスト方式、課題ア) - 2 で検討されているパケット衝突回避方式は、新規性の高い技術であると考えられる。今後、方式を詳細に検討することで実現性や実用性を高めることを期待したい。
- 平成 25 年度、平成 26 年度に実施を予定していた各課題の研究内容の一部(課題ア、イの連携)を前倒しして平成 24 年度に実施しており、タイムリーな研究成果が得られている。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

有効かつ適正に研究資金が使用されている。

(コメント)

- 補正予算での研究期間の短縮に伴う変更も含めて適切に対応・使用されている。

(3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

実行可能であり有効かつ効率的な計画である。また、平成 24 年度(補正)の年次目標においては、課題間の連携や、過去の研究開発成果との連携に関する取り組みが認められる。

(コメント)

- 計画を繰り上げているが、その中でも平成 24 年度(補正)の年次目標に『課題ア、イ間の連携に関する動作検証』、『平成 23 年度補正予算「耐災害性研究開発」で開発した DTN アクセスポイントとの関係に関する野外フィールドでの確認』が新たに追加されている。

(4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

有効かつ効率的であり、適切な予算計画が組まれている。

(コメント)

- 研究期間の短縮に伴う計画の繰り上げに良く対応し、変更も含めて適切に計画されている。

(5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

適切な実施体制である。

(コメント)

- 研究機関の役割分担が明確である。その上で連携がはかられている。
- 引き続き、課題間の連携には十分に配慮しながら研究開発を進めて頂きたい。